

図画工作科学習指導案

指導者 横浜市立新吉田小学校 落合 恵美

1. 日時・場所 令和4年6月14日(木)第1・2校時 ほか 場所 6年3組教室
2. 学年・組 第6学年3組 37名
3. 「学習の方向性」から題材へ

造形的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を育む「学習の方向性」

- 感じたことや想像したこと、見たこと、伝えたいことから表したいことを見付け、主題を効果的に表す。
- 活動したことや表現したもののよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を深める。
【A表現(1)イ(2)イ】【B鑑賞(1)ア】〔共通事項〕(1)アイ

子どもたちの姿

- 版に表す活動は、スタンプ遊び、紙版画、木版画、彫り進み版画と、学習のつながりを意識してすすめてきた。技能の指導後、納得がいくまで活動に取り組んできたため、彫刻刀を使うことや、刷ることに親しみをもっている児童も多く、既習の技を活かそうとする姿が見られる。その一方、刷ることに難しさを感じている児童もいる。
- 3・4年までは具体表現が多かったが、5年からは抽象表現を通して自分の思いを表す活動に取り組んできた。表現したものについて鑑賞し感じたことを言葉でも表すようにしてきた。
- 図工の時間を楽しみにしている児童が多く、題材を問わず意欲的に取り組む姿が見られる。その一方、制作にのめりこむあまり、時間の見通しをもてない児童や、自分の作品に自信がもてない児童もいる。
- 作品に台紙をつけるようにし、自分の作品をどう見せるかについて、色の組みあわせや効果を考える活動に取り組んできた。

教師の願い

- 彫刻刀の扱いや刷りなど、前年までに身に着けた技能を活動に生かしてほしい。特に刷りについては、以前の題材と比較しながら、インクの特性や刷りのコツを理解して、基本的な技能を確実なものにしてほしい。
- 活動を通して、自分の表したいことを明確にし、色や形を工夫することで効果的に表現できるようになってほしい。また自分が何を意図として、どう工夫したか言葉で表せるようになってほしい。
- 学習計画を明確にし、見通しをもって取り組めるようにしたい。また互いの作品を自然に見あえるようにして、友達の効果的な工夫を作品作りに取り入れられるようにしたい。鑑賞活動を通して、互いの作品のよさを伝え合い、自分の活動に自信をもって取り組めるようにしたい。
- 台紙ひとつで作品の印象が大きく変わることに気づいてほしい。自分で選び取る経験を通して、生活に中にある色や形に興味をもち、主体的に関わるようになってほしい。

題材名

『 Future Dream 』
～回転版画の技法を使って、色や形の重なりや回転の効果を工夫して、
自分だけの夢空間を表そう～

題材目標

- 自分の思いに合った版や刷り方を考えて表すときの感覚や行為を通して、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを理解するとともに、前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すようにする。
- 正方形の版木を回転させながら刷ることによる形や色の重なりや、透明水性版画インクの色鮮やかさや刷り重ねたときの色の变化などを生かして表したいことを見つけ、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じなどを考えながら、どのように主題を表すかについて考えるようにするとともに、自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めるようにする。
- 主体的に、自分の思いにあった図案や刷る色の順番、回転させる向きなどを考えて表す学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うようにする。

題材について

本題材は、正方形の板に彫刻刀で彫った後、版木を回転させながら刷りを重ねていく版画である。図柄が90度回転しながら重なっていくとき、彫りと色が重なって予想外の効果が生まれる題材である。予想外の効果が生まれるとはいえ、回転させていくことを念頭に、図柄の配置やインクの色順番をある程度考えなければならない。

昨年は彫り進み版画に挑戦し、意図的に彫ることや、色を重ねたときの効果について考えながら作品づくりをした。今年度は彫ること自体の量は多くないものの、自分の表したい表現に近づけるためには、回転の動きと色の重なりを予想し、工夫して彫ったり、刷ったりする必要がある。また、今まで使ったことのない透明水性版画インクの、重なりによる色の変化を楽しみながら、新しい表現方法を知ってほしいという考えもあり、様々な版画の中でも回転版画を行うことにした。

今回は線や面、模様を活かした抽象表現にした。制作をしながら自分の表したいものに近づけるためには、より具体的に仕上がりイメージをもつ必要があり、形や色、どう彫るか・彫らないか、動きやバランスなども考えなくてはならない。友達の作品を見て意図に気づいたり、刷ってみて作り変えたりしながら、効果的に表すための試行錯誤をするとともに、じっくりと自他の作品を向き合うことで自分の見方や感じ方を深めてほしいという思いもある。

完成した作品は、6色から選んだ台紙に貼りつけて展示することにした。友達と話しながら、一人でじっくり考えながら、作品にぴったりの色の台紙＝額縁を選ぶことを通して、形や色などに関わり、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うとともに、自分の作品が生活を楽しくするという自信につなげていきたい。

○「学習の方向性」を基に育成を目指す資質・能力と本題材との関連

第5学年及び6学年 版に表す活動

回転版画の技法について理解するため、見本を用意する。制作工程を知るとともに、線や面・奥行き・動き・バランスなど、どのような工夫ができるか全員で確認する場を設けることで、自分が表したいことをしっかりイメージし、どのような効果を用いて表現できるか考えられるようにする。制作中や完成後に自由に互いの作品を見合えるようにすることで、自分の見方や感じ方を深められるようにする。

4. テーマに迫るために

研究主題

感性豊かに生きる力をはぐくむ図画工作科学習の創造
～感じる つくる 考える 子どもの姿を求めて～

部会テーマ

効果的に つくることを楽しむ子どもの姿を目指して

○出あいの工夫

- ・児童の前で実際に刷って見せることで、活動への期待や意欲を高められるようにする。
- ・教師の作った見本を見せることで、活動の進め方について理解し、見通しがもてるようにする。
- ・5年生のときの彫り進み版画を想起させ、刷り重ねていく活動であると、分かるようにする。

○場の設定の工夫

- ・彫りの場と、刷りの場を分け、安全にのびのびと活動できるようにする。また、試しに刷ってみたり、刷った後にまた彫ったりなど、自由に試し、作り変え、工夫ができるようにする。
- ・版を洗う場面があるので、効率よく活動できるようにするため、乾燥用にドライヤーを用意する。
- ・制作の途中でつくりつつあるものを見合えるようにし、お互いの表現のよさやおもしろさに気付いたり、認め合ったりすることで、自分の表現に自信がもてるようにする。

○共感的支援の工夫

- ・児童一人ひとりがどのようなイメージをもっているか把握するために、一人ひとりと計画的に対話するようにする。
- ・児童の思いに寄り添った対話や声掛けをして、子どもたちが自信をもって活動できるように支援する。

○小中一貫の視点として

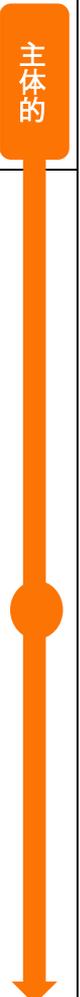
- ・彫る模様やその位置、刷る色の順番などを考えて、自分が表したいイメージをもちながら、同時に、見る人にも自分の思いを感じさせる構成を考えるようにすることは、A表現(1)イ(2)アのデザインや工芸などに表現することにつながっていくと考えられる。

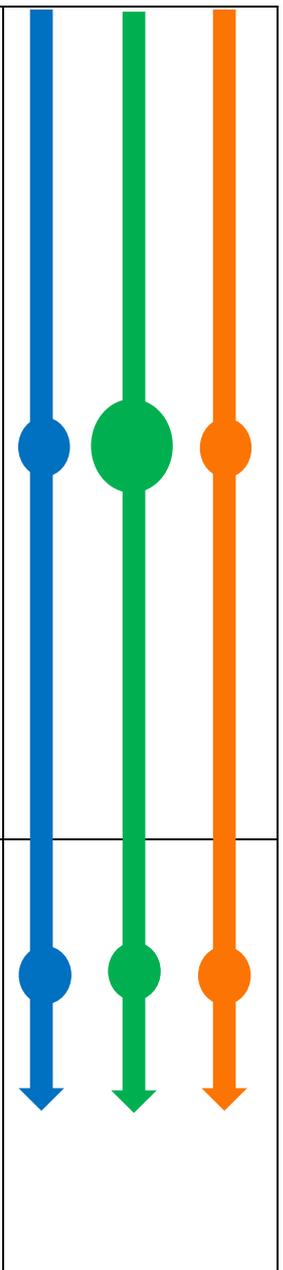
5. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いに合った版や刷り方を考えて表すときの感覚や行為を通して、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを理解している。 前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 正方形の版木を回転させながら刷ることによる形や色の重なりや、透明水性版画インクの色鮮やかさや刷り重ねたときの色の变化などを生かして表したいことを見つけ、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じなどを考えながら、どのように主題を表すかについて考えている。 自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> つくりだす喜びを味わい、主体的に、自分の思いにあった図案や刷る色の順番、回転させる向きなどを考えて表す学習活動に取り組もうとしている。

6. 指導と評価の計画 8時間

- ア 回転版画について知り、どのような表し方があるのか、考える。(15分)
- イ 版木を正方形に切る。図柄を考え、紙に描き、カーボン紙で版木に写し取る。(75分)
- ウ 彫る(60分)
- エ 刷る(165分)
- オ 刷った物を台紙に貼り、完成した作品をお互いに見合う(45分)

子どもの学習活動	評価規準 【評価方法】	教師の指導	知・技	思・判・表	主体的
<p>ア 回転版画について知ろう。</p> <p>○完成見本を掲示し、どのように作ったものか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「これってどうやってつくったの？」 「版画なの?!」 「よく見ると、同じ模様がある。」 「回しているんだ!」 「いつもの版画と色が違う。」 <p>○回転版画の制作手順を知り、どのような表現ができるか、完成見本を見ながら話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「思ったより簡単にできそう。」 「回したときに模様がどこにくるのかな。面で彫ったところはあるか?」 「線の太さを変えると雰囲気が変わる。途中で線を細くすると、奥に入っていくみたい。」 「曲線や直線を組み合わせてもおもしろいね。」 「4月に習った対称の図形だと、模様が重なって見えなくなりそう。」 	<p>知・技</p> <p>造形的な特徴の違いに気づき、奥行きやバランスなどを理解している。</p> <p>【発言・つぶやき】</p>	<p>○完成見本数点を用意する。</p> <p>○既習の版画と比べて、どのような違いがあるのかに気づくようにする。</p> <p>○透明版画インクについて説明し、色の重なりにも着目させる。</p> <p>○昨年までの学習内容を使ってできる活動だということに気づかせる。</p> <p>○線の違い、面の彫りかたなど、形に着目し、動きや奥行き、バランスを工夫して表現できることに気づかせる。</p> <p>○対称の構図は適さないことに気づかせる。</p>			

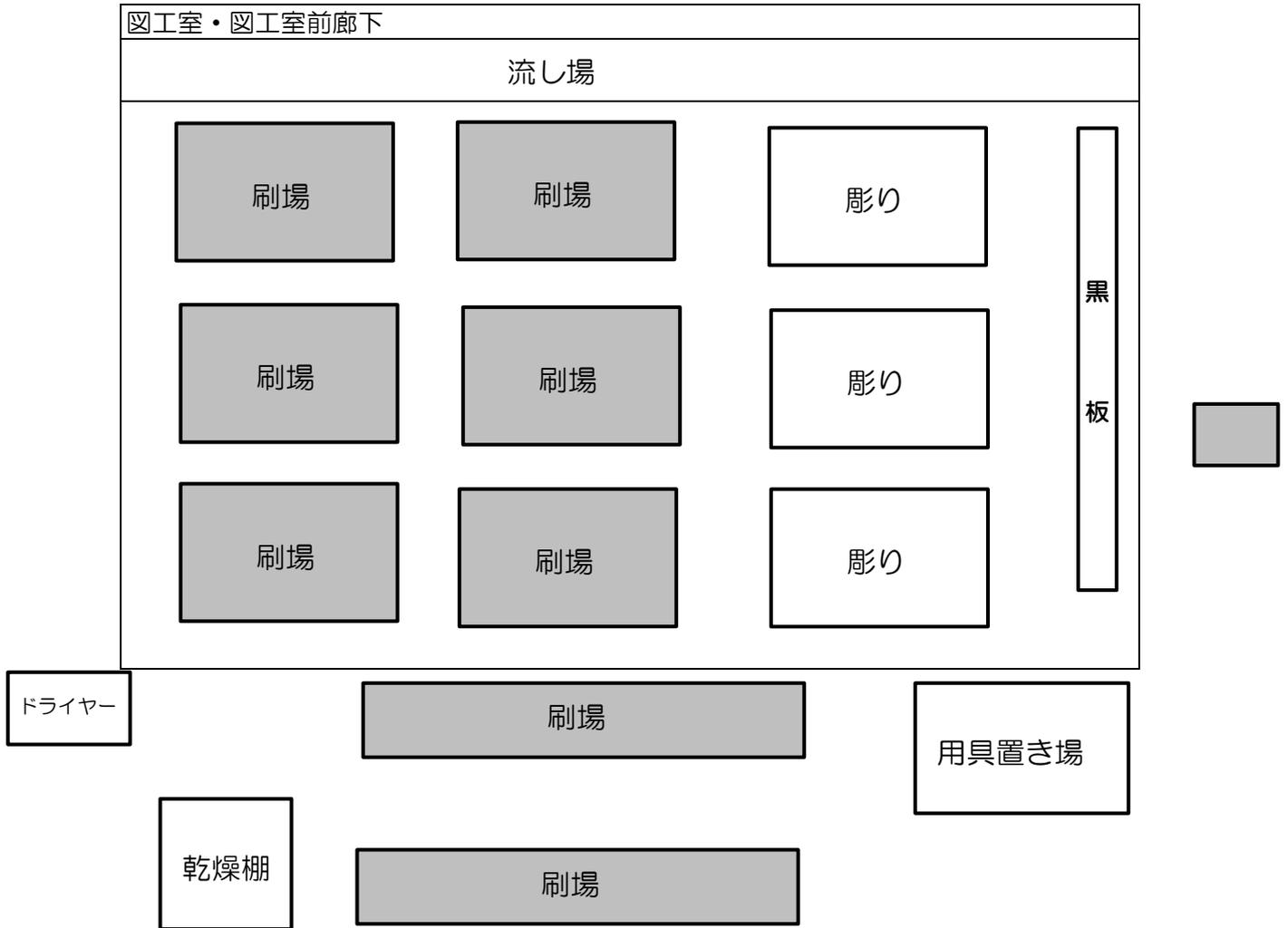
2	<p>イ 回転させることで、より美しさが引き立つ図柄、 自分だけの夢空間になるような工夫を考えよう。</p> <p>○電動糸鋸盤で、版木を正方形に切る。 ○見本や話し合いを通して考えたことをもとに、「自分だけの夢空間」になるような図柄を考えて紙に描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「明るい雰囲気にしたい。彫ったところは色がつかないから…たくさん彫った方がいいのかな。」 ・「○○な空間を表したいから、三角形をたくさん彫ってみようかな。」 ・「和風の空間にしたいから、着物みたいな模様が使えるかも。」 ・「去年、どんな模様を彫ったかな？あの時の模様が使いそう。」 <p>○描いた図柄をカーボン紙で版木に写し取る。</p>	<p>思・判・表</p> <p>版表現の特徴を生かして、表したいものを考えている。回転させたときの形や色の重なりを想像しながら、表したいことが効果的に表現できるよう考えている。 【つぶやき・活動の様子】</p>	<p>○電動糸鋸盤の安全な使い方を確認する。 ○思いつかない児童には、どんな表現にしたいのか対話し、完成のイメージをもてるように声をかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どう仕上がるのか想像がしにくい児童には、見本と見本の版木を見比べることで、回転させたときのイメージをもてるように支援する。 ・明らかに、回転させても模様が重なってしまう図案の時は、版木を回しながら、どう刷り上がるかについて確認する。 ・彫り進み版画で、様々な模様を彫ったことを振り返り、図柄に生かすことができることに気づかせる。 	
3	<p>ウ 線の太さや面の大きさ、形を工夫して彫ろう。</p> <p>○彫刻刀の種類や安全な使い方について確認する。 ○版木に写し取った模様を彫る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この部分は鋭い線にしたいから、三角刀がいいかな。」 ・「この部分は、もう少し彫った方が輝いた感じになりそう。」 ・「線だけがいいかな、面で彫った方が、回して重なった時にいいかな。」 		<p>○児童の前で彫ったものを実際に刷って見せることで、版画どのように刷り上がるのか、見通しがもてるようにする。 ○イメージした彫りに近づくよう、彫刻刀の種類と彫り跡について既習事項を再確認する。</p>	

<p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7</p>	<p>エ 形や色の重なりを確かめながら、 刷る色の順番や回転させる向きを考えて刷ろう。</p>	<p>○透明版画インクの特徴を知る。 ・「インクの透け方が今までの版画と違う。」 ○版画用具の適切な使い方について確認する。 ○版木の裏の各辺に目印を書き、90度回転させながら刷る。 ・「わあ、すごく鮮やかになった。」 ・「線だけだと思ったより暗いかもしれない。もう少し彫りたい。」 ・「刷ってみたら、思っていたのと違う雰囲気になった。次はどう工夫して刷ろう？」 ○時計回り、反時計回り、出発点を変えるなど、回し方を工夫したり、2色刷りをしたりして4～5枚程度刷る。 ・「回転の向きを変えたら、雰囲気が全然違う。」 ・「はっきりした赤と青がイメージに合うから、2色の方が好きだな。」 ・「この半円の模様が好きで向かい合ったら、よりよくなりそうだから、向かい合わせになるように動かそう。」 ・「色を重ねる順番を変えたら、仕上がりが違う。自分の表したいものは、どっちが近いかな」 ・「刷っていたら、自分の考えていたことと変わってきちゃった。こっちのイメージで進めたい。」</p>	<p>思・判・表</p> <p>【つぶやき・活動の様子】 回転させたときの形や色の重なりを確かめながら、表したいことを効果的に表現しようとしている。</p> <p>主体的</p> <p>【活動の様子】 自分の思いに合った表現にするため、刷り方を考えて、粘り強く楽しみながら活動している。</p>	<p>○インクの量や練板の使い方、適切なインクのつけ方などを、刷っているところを見せながら確認する。 ○透明版画インクを効果的に刷るためには、 青→赤→黄 の順番か、 赤→青→黄 の順番で刷るとよいことを伝える。 ○彫り足したい場合は、彫り場で作業してよいことを伝える。</p> <p>○刷り方で様々な工夫ができることに気づかせる。 ・試してもよいことを伝える。 ・なぜ、そのような工夫をしようとしたのか話を聞くことで、意図的に取り組むことができるようにする。</p> <p>○刷りながら互いの作品を見合えるようにし、よさに気づいたり、取り入れたりできるようにする。</p> <p>○刷りが難しい児童には、刷り方を一緒に確認する。また、版木を洗った後に、ドライヤーでしっかり乾かすよう伝える。</p>	
<p>8</p>	<p>オ 自分の表現したいことにぴったり合う台紙を選び、作品を完成しよう。 互いの作品をよく見て、よさや工夫を伝え合おう。</p>	<p>○6色の中から、自分の表現に合う台紙を選び、作品を完成させる。 ・「自分は模様の線が細いから、その幅に合わせて白い枠は細いものを選ぼう。」 ・「黒い台紙がいいと思ったけど、作品をのせてみると、クリーム色の方が、作品が明るく見える。」 ・「友達同士で、何色が合うか見てみよう。」 ○表したかったことに合う題名を考え、作品札を作る。 ○友達と作品を鑑賞する。</p>	<p>思・判・表</p> <p>【交流・発言】 版表現を活かしたよさや美しさ、表し方の工夫を感じ取っている。</p>	<p>○作品をのせる白枠と台紙は、実際に作品をのせて試してから決めるように伝える。 ・なぜその色を、その幅を選んだのか聞き、考えを周り共有することで、意図をもって選ぶことができるようにする。</p> <p>○友達の作品の工夫を見つけ、気づいたよさを伝え合うことで、自分の作品に自信をもてるようにする。</p>	

7. 準備

- 教師：版木 SP 板（児童数）、透明水性版画インク「新日本造形」（赤、青、黄）各色2本、
 版画用紙児童数×5枚、版木作業台（児童数）、電動糸鋸盤、ドライヤー2本
 児童：筆記用具、彫刻刀、汚れていない乾いた雑巾またはタオル

8. 場の設定（第4～7時）



※彫りの場は、終わり次第、刷場になる。

9. 研究内容についてのふりかえり

1. 「学習の方向性」を基に育成を目指す資質・能力を明確にしたカリキュラム・マネジメント

- ◆感じたことや想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから表したいことを見付け、
 主題を効果的に表す。 【A表現（1）イ（2）イ】

【効果的に表すことについて】

◎適切な量の見本の提示

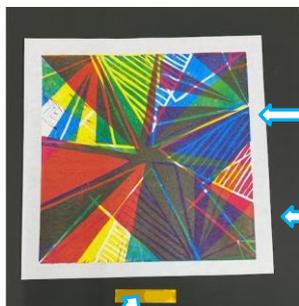
第一時に完成見本と出会ったときに、表現の工夫を友達とたくさん見つけ、共有する活動をした。直線や曲線から“硬さ柔らかさ”や、線の太さから“勢いや強さ”などを感じると気づいたり、配置や量から“動き、奥行き、バランス”などが感じられる表現を見つけたりした。このように表現の効果を言葉と結び付けたことが、図柄を考えたり、彫ったりするときに生きてきて、「柔らかく温かい感じにしたいから、曲線や丸い形を多くしよう。」とか、「かわいいポップな感じの空間にしたいから、太めの線を選んで、円を描くように図案を並べよう。」などの児童の発言や表現につながったと考える。

◎友達との自然な鑑賞活動や教師との対話

活動をしながら、友達のつくりつつあるものが自然に見えるようにしたこと、また自由に話しながら活動していたことも、効果的に表すことにつながったと考える。なんのためにそのように彫ったのか、色を選んだのかなど、「なぜ」と聞くことで、どんな表現を目指して、どんな工夫をしたかが明確になり、それが自然と共有されたと考える。

◎完成後の作品の展示方法まで考えて

作品の完成後は、台紙に貼り、金か銀色の名札を貼って展示できるようにした。その際に、



①白い枠の幅を選ぶ ②台紙の色を選ぶ ③名札の色を選ぶ と、自分の作品に向き合い、表したいことがより伝わるように考えなくてはならない場面が何度か生じた。

①作品の周りを囲む白い枠は、彫った線の幅に合わせていからと細い枠を選ぶ児童や、作品自体が暗い画面で「この太い枠にすると、なんだか作品が見やすくなる」と、色の組み合わせの効果に自然と気づく児童などがいた。

②台紙選びも同様で、作品の中に含まれている色を使った台紙にすることで「落ち着く感じがする」と話した児童や、「夜のイメージの作品だから絶対に紺」という児童、作品が白っぽいので「黒にするとなんだかしみる気がする」と話す児童もいた。

③名札選びは、金か銀か、絶対に作中ない色を選ぶことになる。「金属っぽいから」と金を選ぶ児童、「目立たせて見てほしいのは作品だから、あえて銀にしたい」と話す児童もいた。

また作品の解説をどう貼ろうか迷っていたところ、児童から「作品としてこれで完成にしたいので、台紙に解説を貼りたくない。別にしたい。」と要望があった。自分の作品の完成形に自信をもっており、どう見せたいかよく考えている様子が感じられた。

以上のように、自分の作品をどう仕上げるか考えることも、作品を通して伝えたいことを効果的に表すための一つの手段になったのではないかと考える。

【主題】

▲今回、一番考えさせられたことが主題である。どんな主題にすればいいのか、とても悩んだ。

回転版画の技を活かして、色や形の重なりを考えて表現に取り組んでほしかったので、できれば「自分が美しいと感じる作品」という主題にしたかった。しかし、果たしてそれでいいのかわからなかったため、初めて回転版画を見た児童から「なんか未来っぽい」「サイバーってかんじ」などの声がきかれたことから、「Future Dream」「自分だけの夢空間」というような言葉を主題にしようと選んだ。

ところが実際の活動に入ると児童はそんな言葉は全く気にしておらず、自然に、どのように色を組み合わせたら、どう彫ったら、美しい、面白い作品になるのだろうかと試行錯誤していた。そして大半は活動を進めていく途中には、本人なりのテーマが決まってきており、そのためにどんな表現にするのか考えて取り組んでいた。「主題を効果的に表す」ためには、果たしてどんな主題がよかったのか、考える必要があると感じた。

◆活動したことや表現したもののよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりし見方や感じ方を深める。

【B鑑賞(1)ア】

◎友達との自然な鑑賞活動

作品を作りながら鑑賞をする場面が多かったため、交流も自然と増え、自他の表現のよさに気づいたり、見方や感じ方を広げたりすることができたと考える。

2. 「主体的で・対話的で深い学び」の視点からの授業改善における子どもの変容

◎回転版画はとにかく刷り上がった瞬間の感動が大きく、2刷り・3刷りと刷り上がる度に歓声が上がったり、歓声を聞いてみんなが見に来たり、作品作りへの意欲が高い児童が多かった。そのため、教師が言わなくても何枚も刷り方を変えて挑戦してみたり、うまく刷れないときは相談に来て、粘り強く取り組んだり、気に入らないときは何度でも作り変えたり、主体的に取り組む姿が見られた。自然と児童が集まって作品を見合うので、対話も生まれ、互いに関わり合いながら活動に取り組むことができた。

これは、題材自体が魅力的であること、そして今まで積み上げてきた技能を使った活動なので見通しがもちやすく、ある程度どの児童も自由に自分で考えて進めたり、工夫したりできる余地があったからだと考える。